

<様式－１の記入方法>

箇所番号は、調査箇所(所在地)で、斜面を区分したいときに使う。

調査箇所は、区域等指定されていればそれらを使うが住所でもよい。

調査日時は、調査開始日時を記す。

様式－１

箇所番号 1

調査日時 平成 30 年 4 月 1 日 10:00

農地等斜面災害緊急調査表

調査箇所 (所在地)	〇〇市〇〇町〇〇 地先		緯度：北緯 35° 40' 26"
調査者	□□□□、△△△△、〇〇〇〇		経度：東経 139° 45' 6"
被災報告 概要	豪雨による地すべりで農道が通行できない (地元情報)		
災害形態	①土石流 ②地すべり ③崩壊 ④その他 ()		
斜面分類	①自然斜面 ②切土のり面 ③盛土のり面 ④その他 ()		
斜面特性	①幅約 15 m ②長さ約 16 m ③高さ約 15 m ④勾配約 45 度 ⑤地質 硬い岩盤 ・ 軟質な岩 ・ 土砂		
災害発生域	①田 ②畑 ③果樹園 ④農業水利施設 ⑤宅地 ⑥道路 ⑦溪流・河川 ⑧その他		
土砂流出域	①田 ②畑 ③果樹園 ④農業水利施設 ⑤宅地 ⑥道路 ⑦溪流・河川 ⑧その他		
斜面の状態	確認事項	結果 有 無	状況
	連続した亀裂や開口した亀裂がある	○	路面上 10m にわたって亀裂がある
	異常な陥没や線状の凹地・段差がある	○	道路路肩に段差ができています
	新しそうな浸食跡や崩壊跡がある	○	
	地表水の流入や湧水、パイピング孔がある	○	
	ある程度の範囲で倒木や立木の傾きがある	○	路肩付近の流木がやや傾いている
	不安定な転石や土塊・岩塊がある	○	不安定と思われる土塊が残っている
被害状況	斜面の押し出しや土砂の流出がある	○	
	農地に変状が生じている	○	
	人家や宅地、公共施設に被害がある	○	
	道路 (農道以外) に支障がある	○	
	農道が損壊などしている	○	路面に段差があり通行不能
	農業用施設が損壊などしている	○	
	ため池や用水路に土砂が流出している	○	
	農地に土砂が流出している	○	
	水路やカルバート周辺に大きな洗掘がある	○	
	河川や溪流に流出した土砂が堆積する	○	
	保全対象が河川等により浸食されている	○	
	上記以外の被害がある	○	

緯度・経度は、GPS 機能付きカメラや携帯アプリからでも取得することもできる。

被災報告がある場合は状況把握をしやすいように、予め記入しておくとうい。

災害形態は基本的に「土石流」「地すべり」「崩壊」から選択する。

斜面分類は、植生等でよくわからない場合もあるので注意。分らないければ不明でもよい。

幅や長さ、高さ、勾配は、大まかな規模が把握できる程度で記入 (計測しにくければ目測可)。

地質は、見た目では判断してよいが、ハンマーなどあれば叩いたりして確認するしてもよい

災害発生域・土砂流出域は、それぞれで分布する保全対象や土地利用状況を選択する。土砂流出域では、土砂等が流出していない場合でも保全対象を明確にするため下流の状況で判断する。

状況は、確認事項に関連した特筆すべき点を記入する。結果が「有」とした場合は、状況について極力記入するようにする。

結果は、確認項目に記されている事象があれば「有」、見られなければ「無」に○を記入する。調査時に確認した結果で判断してよい。

調査者所見 (災害規模、被害状況や今後の対応等)

- ・ 農道の路面にある変状は顕著で、路肩が沈下し車の通行はできない。
- ・ 斜面の土塊は不安定な状態のままである

調査者所見は、災害規模や被害状況等を具体的に記載する。また、現状のままでは、被害が拡大する恐れがあるような場合に、その状況や対応策の提案など気が付いた点を自由に記入してよい。

また、今回の調査で状況がよく確認できなかったときは、その状況を記載する。
調査箇所について聞き取りなどができたら、その情報も記載する。

緊急度	A	今後、人身や家屋・公共用施設等の重要な物件に被害が及ぶ可能性のあるもの
	○ B	被害があるもの、または被害が拡大する可能性のあるもの
	C	被害がほとんどないもの
緊急度判定不能の場合		①現地は確認したが判断が困難 ②現地を詳しく確認できない ③その他
理由・状況等		

緊急度は、現地調査結果を踏まえて、3つの区分で判断する。「A」については、避難を含む緊急対応等が必要な場合に該当するものである。「B」は、例えば現状で被害がまだないが、明瞭な斜面変状が確認され将来的に危険な状況が生じそうな場合も含まれる。「C」は変状があるが極小規模で周囲に影響を及ぼさない場合や、まったく被害が生じておらず、安全性について問題ない場合などが該当する。
緊急度は、次の対応を判断する上での一つの目安として利用することが期待される。ただし、調査員によって判断が分かれる場合もあるため、現地写真やその他の記録を十分揃えておくことが望ましい。
なお、緊急度判定不能の場合として、「現地は確認したが判断が困難」、「現地を詳しく確認できない」、「その他」のどれかを選択することもできる。このような場合があれば、緊急度は判断せずその理由・状況等をコメントとして記載する。

<様式－2の記入方法>

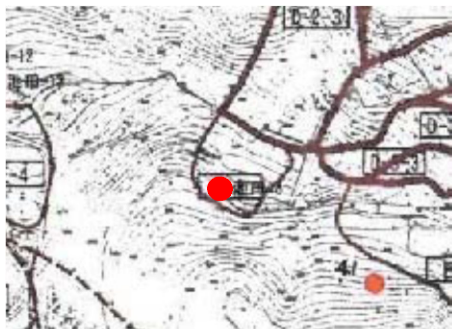
様式-2は「調査位置図」や斜面災害状況や被害状況などの「写真」「スケッチ」等を貼り付けるための様式である。その他、施設の構造図等を貼り付けて、変状位置図等としたり、自由に使うことができる。また、写真等多く撮影した場合には、この様式を追加してもよい。

様式－2

箇所番号 1

調査位置図、斜面災害状況・被害状況などの写真やスケッチ

<調査位置図>



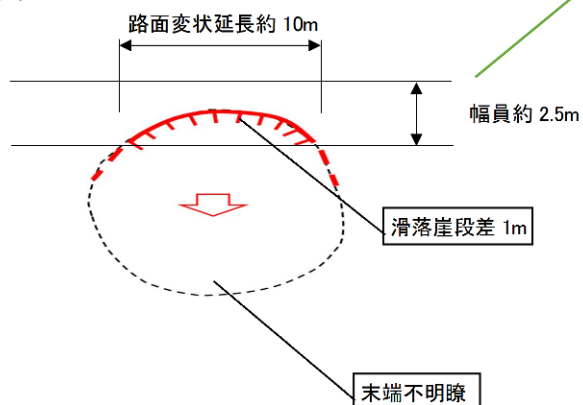
調査位置図は、具体的な調査箇所を明示したり、調査箇所へ行くためのルートを示したり、写真撮影位置や変状位置を示したりするのに用いる。極力目的に合った縮尺のものを用意する。

<変状状況写真>



写真は、斜面災害の状況や周辺の被害状況などを撮影して貼付する。写真はできる限り規模が分かるように、赤白ボールやコンベックスなどスケールとなるものを一緒に写し込んでおくことが望ましい。また、変状箇所ごとに状況が分かるように撮影しておく。

<変状範囲スケッチ>



スケッチ等は、現地の状況を分かりやすく説明するために記載するものであるが、写真で状況が分かれば、あえてスケッチをとる必要はない。